寫眞週報

情報局編輯
九月廿三日・第二百卅九號・十セン

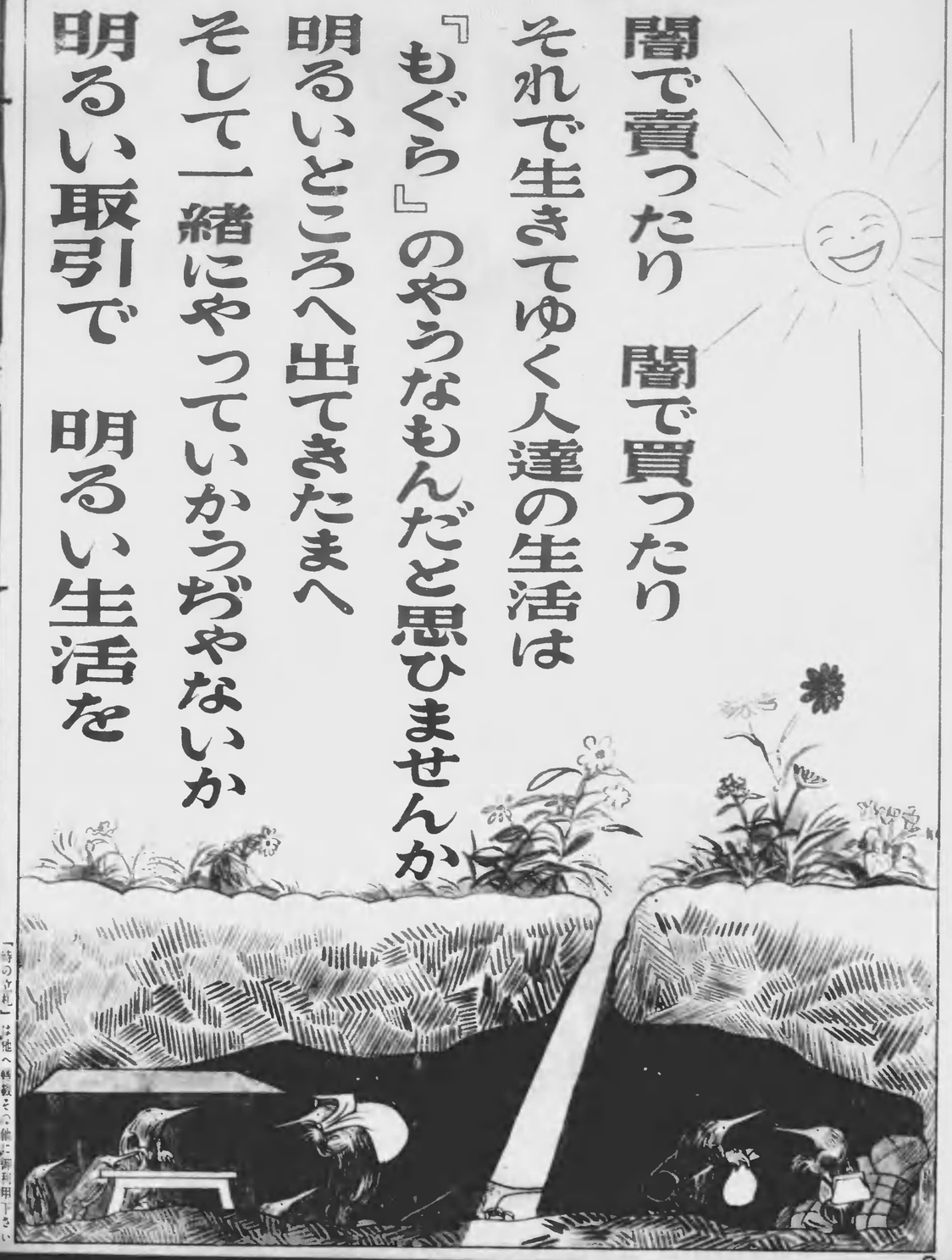
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

闇！しかも帝都に爲行の

九月八日　十日警視廳經濟警察部員と同行撮影

てつうを廂車が驗査檢でれそ　るへ答と　んせまりあ？　りきつは　とく訳と　し？かいな？　てしそ　いなゐて出然全は物果はに先店
だり寶實情るた然歴‥‥山のめ詰箱め詰箱　とる入に奥歩‥‥‥
いどひ　ろゐてれま積りしつぎ　がどな頒洋西　ウドブ　頒紀批十二　ゴンリ‥‥たつあ　たつあ　とるみてし驚奇を壁ド地に更
店菅果〇〇の面方橋木日　一かうら老のいよでれこ　るゐてけかを車植厨一に餓飢物果の都帝が爲行正不なんと　たみし惜寶

闇で賣ったり　闇で買ったり
それで生きてゆく人達の生活は
『もぐら』のやうなもんだと思ひませんか
明るいところへ出てきたまへ
そして一緒にやっていかうぢやないか
明るい取引で　明るい生活を



「時の立札」は他へ轉載さつ僅に御利用下さい

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

規切ほ八百屋と列一むるゝ

下欄のやうに帝都の闇にレンズを向けた「寫眞週報」のカメラは、やるせない憤懣に溢面をつくつた

だが、**經濟警察官と共に明るい家、正しい店を訪れたわれらのカメラは……**

明るい。賣る人も、買ふ人も、顔一杯に明るい微笑の氾濫

きうだ、この姿だ

皇國民の本當の姿だ…

この姿、レンズが捉へたこの眩しいばかり明るい、勝ち抜く銃後の姿を、日本國中の人たちよ、守り通さうではないか

□八百屋さんの眼先、行列はしてゐるけれど、殺には搬荷豫定時間が掲示され、あまり早くから慌ばないやうに親心をみせてゐる

□今日の大根は大きいですよ泥たぞ　すつゝてゐません——西之助さん

本日入荷時間
第一回午前十一時頃
第二回午後二時頃

一方に閉ヲする惡德の業者があるかと思へば、一方にはかうした寺澤さんのやうに親切な八百屋さんがある

東京市淺草區内の青物商寺澤さんは仕事の手を一寸休めて

「早い話が、自分一人では生活はできません。私が困ることは他人さまもお困りのことだと思ひます。私の所は八百屋ですから青物はありますが、魚はありません。石鹸も豆腐も買はなければなりません。買ふ苦勞を思へばお客さんに不親切なことはできません。私のところは特

闇！しかも帝都に行のこの爲

警視廳の經濟警察官と共に「寫眞週報」のカメラが帝都の闇を衝いた。そしてレンズが捉へた帝都の暗い眞實がこゝに御覽の通りの寫眞なのである

これでよいのか

闇はとりもなほさず、國を賣る行爲なのだ

十數万英靈が築いた大東亞建設の基礎をあとから切崩してゐる行爲なのだ

やがて俺らの孫が、その孫が、東亞の新らしい平和を享受する時、その孫たちに顔むけならない行爲、それが闇なのだ……

江戸ッ子よ、大日本帝國帝都の業者よ、市民よ、君たちからまづ自肅しようではないか

レンズは明るさを欲してゐる

業者も、消費者も明るく、正しく、強く、戰時下の生活を切拔けていかうではないか

んさ皆はでれこ…りほとのこれこはに庫倉　にれそ
■　いまればかうは者產生たつ作とうはらもてべ食に

いと…すまり賣てし出に店々々箱…　箇數十二が箱鮭化の也鮭十三圓三せ合め詰
…るゐてつたにとこいなけいはてしに詰絶ばれけなで緒…とり賣ラバは賣販せ合

はに屋部の奥がだ
め詰　がるゐてつ

平はに頭店　がだ店賣果某の面方谷濱りはや
…りかば煮個にれそ　メツナ平にナナバ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

⇦このカボチヤはおいしいですよ。えゝと四百七十鬼か――親切八百屋の主人公福太郎さんの量目はゞしい

⇦『姙婦の方にはお先に賣りをす』の掲示にもはつきりと姙婦に立ちん坊をさせない親切心がしみ出てゐる。それに慎榕の表示も明瞭です

⇦秋瓜子はお嬢さんに食べさすなといひますが、今時そんな話さんはおいでになりませんわね。この瓜子はおいしさうでせう――しげ子さんのお愛想ぶり

⇦えゝと瓜子が二十錢、胡瓜が九錢、玉蜀が十二錢、しめて四十一錢――曲つた腰もシヤンと伸ばしてかつさんの應対ぶり

親切八百屋の主人公福太郎

に親切なことをなしてゐませんが、腰の曲つたお婦ちやん、お嬢ちやんまでが店に出て、少しでもお客様に待つていたゞく時間を少なくしようと一家四人が賣手に立つてゐます。お客さんは行列しますが一回の荷さばきは二三十分で終つてしまひます』と主人福太郎さん（四四）が語るうちに、他の賣手父酉之助さん（七〇）母かつさん（六九）妻しげ子さん（四一）の三人は、お客の聲に應じて『ハイ玉蜀と南瓜』としげ子さんが差し出せば、『ハイ大根に大根』と復唱するお嬢ちやんが差し出したものを見れば牛蒡と馬鈴薯だつたのでお客がどつと爆笑する、といつた具合に親切の中にもユーモアがあつて荷はまたゝく間にさばけてゆく

所轄の警察で、あの店は親切ですよといつてくれたが、行列のお客、藤田さんに『こゝのお店は何時もかうですか』と問へば『八百酉さんは親切です』と答へてくれた。賣る者、買ふものに笑ひがあるところに頼もしい戦時下の明朗がある

目量いつ　といなでうさ　とこくおてせさりきつは　は小太格價屋物漬の面方谷下――るなにちがしこおをどな反建の格價や足不で

少も少百　がるれらへ歸てつ買でん勇び者はんさ母おやんさ父お出が品外格煽はたま　品服組なんこ　物品ふいとるけ破が鍋ばけで屋靴の面方田神――恥の者業び及者産生　はのる劍

とくぞのをドの臺列陳の前の目ぐすがだ　屋百八なぼつ空は先店郷本――ぞすまき拉が臺列陳　暮鈴馬にウドブ州甲ならさしいおてに面方

殆てつ蹟を客おは臺盤――で量魚い近に地業二の街場工面方川荒の士職業産・鮭・鮪ばれけがあを庫藏冷　にのるねてつ切き乾どんるねてしとり通素に地業二てしり込れ流ま込れ流に地業二てしとうま

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

経済警察は正しいのもの味方で

⇨ 闇行為を未然に防ぐやうに業者の代表と経済警察官の懇談が進められる

〝経済警察とは〟

あそこの綿布問屋が闇で摘發された。あの果物屋は賣惜しみで取調べを受けた。二丁目の角の八百屋は公定價格違反で、その隣りの魚屋は横流賣のかどで何れも罰せられた等々、直接、間接われわれの日常生活を不安にする根を絶やす刑事的な役目をしてゐるのは經濟警察である

また一方、〝病人が出た、至急に氷が欲しいとか、子供が多いし配給米ではどうしても足りない等等の場合、交番に申請すれば氷の切符や應急米の切符などを發行して物資不足からくる公平な配給を行ふ行政的な面を受持つのも經濟警察である。この他に經濟界の動向を早く知るといふ特高警察の面をも持つてゐるが、世間には經濟警察は唯むやみに恐いといふ向もあるやうだが、違反さへしなければ恐ろしいどころか、われ〳〵日常生活の相談に乘つてくれ、良き相談相手となつてくれる。現に業者上のことについて相談を持込んでゐる人の數は全國で毎月十七、八万件に達してゐる

ところで、經濟警察の目的を一口で言へば、戰時下における統制諸法令の徹底にありと云へる

日本が今日大東亞戰爭をあくまで勝抜くためには、なんとしても軍需資材が必要である。これらを圧る資材が不急不要の方面に横流れに流れてしまつては必要な生産が出來ない。まづ經濟警察はこの重要な資材が横流れに流れぬやう

⇦ 違反する人達が多いほど經濟警察の手數は非常に面倒となり、警察官が何人あつても足りないことになる——經濟警察官の執務ぶり

に監視をしてゐるのである

長期戰になるに從つて、國民生活の安定をはかり、一億一心、銃後の護りを固めて行くことは何よりの肝要である。これがためには、國民生活に必要な衣食住の必需物資を確保し、圓滑に配給が行はれねばならない。經濟警察と國民生活の生き〻の人〻となり、指導者となり、親切な相談役となつて、經濟統制のために日夜奮闘してゐる。現在、經濟警察の機構は內務省に經濟保安課が置かれ、全國の經濟保安官の指揮連絡に當つてゐるのである

〝經濟警察の創設〟

經濟警察がわが國に創設されたのは昭和十三年八月の上旬であつたが、この經濟警察が創設されるについては、はじめ或る方面に有力な反對意見があつた。警察に經濟界のことを左右させるのは、危險極まりないといふのであつたが、この反對意見も統制經濟の進むにつれて經濟界の現實をみてからは全く沈黙したのである

當時なぜ經濟警察が急速に創設されなければならなかつたか、笑へない話が東京市にある

昭和十三年六月二十八日の夜九時頃、ラジオを通じて、明二十九日から綿織物の製造制限とか加工制限といつた臨時措置法に基づく法令が布かれることが放送された

このニュースを聞いて東京某方面の問屋筋では、東京の百貨店側と通謀して法令が布かれる前、すなはち二十八日の午後九時から翌二十九日の午前零時までの僅か三時間にトラックを總動員して、特に某百貨店の如きは店員の青年義勇隊といふやうな團體を利用して、徹夜で製品の搬入を行つたのである

一方この情報に接した警視廳では早速現場に駆けつけたが、如何せん法律は明二十九日でなければ有効でないので、現場を目前に見ながら何ら取締ることができなかつた。しかし二十九日の午前零時には法に基づいて勇躍取締つたが、その時には大半の品物は既に搬入濟みであつたといふやうな法の精神に反したことを業者が堂々とやつてのけた問題があつた

⇦ 経済相談は月に十七、八万件にのぼつてゐます。警察を恐いもの呼ばはりする人達はこんな親切の面のあることも知つて貰きたい

〝取締方針〟

かうした挿話も今では語り草となり、統制經濟が進むにつれて、經濟警察の機構も整備され、闇の摘發はかりではなく、業者や組合を通じて違反を未然に防ぐやうな積極的な指導や、また消費者側の自覚をうながすといつた面にまで進んで經濟警察の活動は續けられてゐる

しかし經濟警察の取締りは惡質重大と認めた事件に對しては、飽くまでも喰ひ下がつて一年でも二年でも手を離さないといつた重點主義で臨み、その綱領を期してゐる。その內容は一事件で百万圓であらうが、十圓、五圓の小さなものであらうが、惡質なものは大小を問はずに徹底的に檢舉してゐる

要するに公定價格以上で物を販賣したり、賣惜しみをしたりすることなどは、日常生活に非常な不安を生じさせる結果となるので、經濟警察當局は、國民生活の安定を期すため、生活必需物資が圓滑に配給されるやうにあらゆる努力を傾けてゐる

⇨ 東京府經濟警察の充實め警視廳警視部の檢閲隊は闇絶滅に出動する

⇨ お米が足りないんですがと、おかみさんが交番に申告しました。事情を聞いてなるほどと合點したお巡りさんは應急米の切符を交付する

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

⇨ 爽かな大気を吸つて朝の體操

⇨ 毎朝五時起き出でて、國旗を掲揚

⇨ 木の根と取組む整地班

神宮御造營の萱場作りに

パラオからも光榮の奉仕隊

⇨ 聖なる汗に微笑む若者

撮影 橋本滿資

⇨ 百人分を一手に引受けた炊事部隊

聖地、伊勢の山田市から宮川の清流を遡ること三里餘り、標高五百メートル、五里山の中腹に、いま大日本青少年團員の手によつて神宮萱場造成勤勞奉仕が行はれてゐます。この奉仕は、昭和二十四年に執り行はれる神宮御遷宮のための御造營に御屋根を葺きまゐらせる萱を最培する特別の萱場を作る奉仕をいふのです

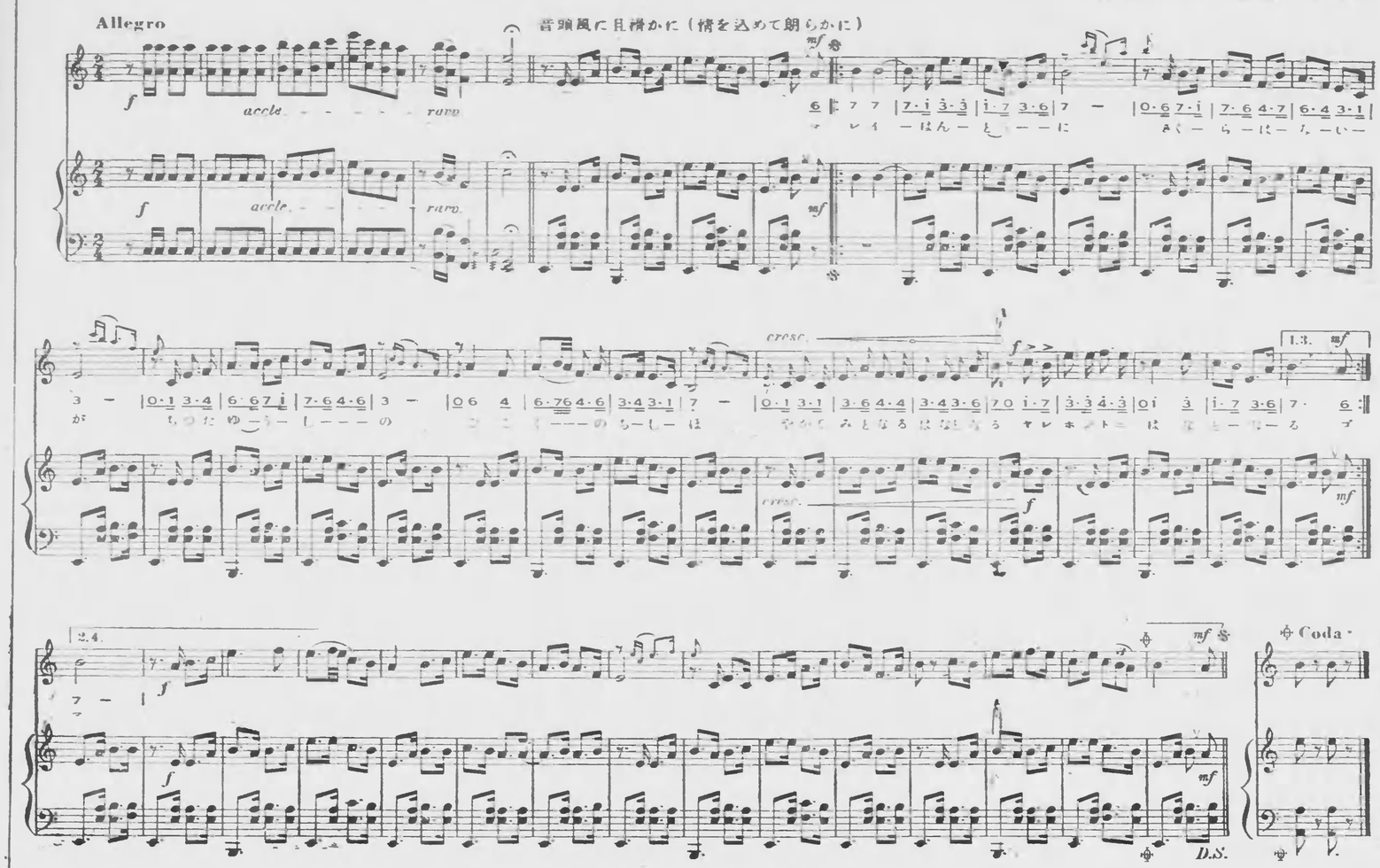
この事業は、大日本青少年團が全國青少年たちの精神の基調である敬神崇祖の念を、神事への奉仕によつていよ／＼深め、聖業達成に挺身する眞の皇國民として錬成するために企てられたものです。

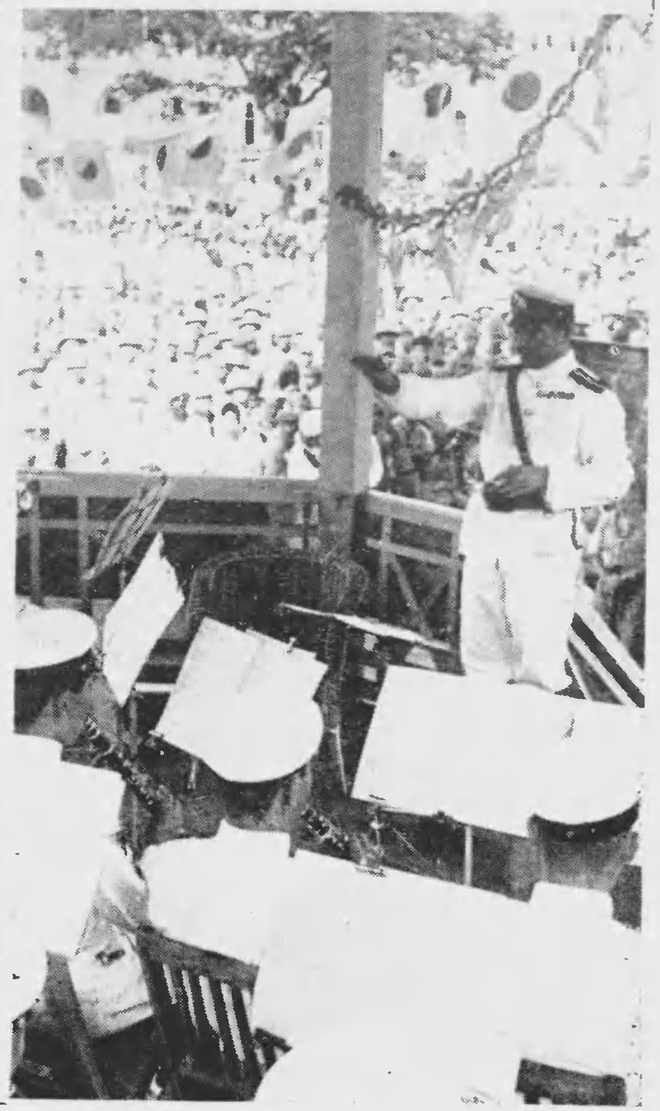
全國から選抜された光榮の奉仕者はその數三千三百名、これらの團員たちは約百名宛が三重縣度會郡小川郷村地内の宿舎に合宿して、交替に二週間の奉仕を行ひ、本年四月から明十八年六月までの間に美しい御遷營用の萱場を作り上げようといふのです

こゝには、いま京都理男女團員百餘名に混つて、遠々と赤道近いパラオ、サイパン、ヤップの各島から馳せ參じた三十名の同胞の姿が見られ、內地部隊と南洋部隊が負けず劣らず作業にうちこむ勇ましい掛聲、斧の響き、鋸の音が森深い五里山中にこだましてゐます

マレー音頭

現地 ○○部隊 さがね生作詞
○○艦隊 軍樂隊作曲





⇨廣場を埋める日本の兵隊さんや原住民を前に演奏する我が現地派遣軍軍樂隊

一

マレー半島に櫻はないが
散つた勇士の護國の血潮
やがて實となる花となる
ヤレホントニ花となる

二

マレー半島に櫻はないが
昨日届いた故國の便り
母が願の八重櫻
ヤレホントニ八重櫻

三

ゴムの青葉と櫻の花が
結ぶ心の誠と誠
永遠に榮の基となる
ヤレホントニ基となる

四

花を植ゑましよ櫻の花を
見事咲かせて世界の果てに
大和心の花吹雪
ヤレホントニ花吹雪

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records

マレーの俘虜

四

陸軍上等兵　竹森一男　作

溝口は落葉が堆積してゐる小高いところを足もとに見た。おぼろな感覺ではあつたが、少し變に感じた。彼は殆んど何げなく、鎌田の足跡を踏まず、その落葉の上を踏みつけてみた。と、どゝゝ、といふ鈍ひで深い穴の中に滑り込んだ。あッといふ間もなかつた

『しまつた！』と思つた

『一番張りきつてゐるつもりで、誰よりもぼんやりしてゐるではないか』と瞬間自嘲した。身を悶えてはひ上ろうとした。木の枝と葉が重い足にからまつた。鉄を持つてゐる手には力がはいもなかつた。敵の穽に陥ちたやうな氣がふとした。彼は滿身の勇をふるつて背伸びをし、鉄を上にはふり上げた。そして勢ひ込んで撃ち降らうとした

何故このやうなところに穴があるのか、彼には瞬間解し兼ねた。敵の塹壕でもらうか。銃で十をたゝき、踏み段を作ちうとし、手で草を握つてゐるうちに、背中に冷汗が滲んで來た。猛獸の巣に陥込んだやうな恐怖が彼を追ひ立てた。彼は分隊の後尾に向つて大聲で呼びかけようとして口を開いたが聲は出なかつた。この淺間しい恰好を戰友に見せることよりも、失策した姿を曝しておきたい氣持があつた。彼はすぐ飛び出して、何げない顏をして後尾に追ひつけるものと考へてゐたのである。――一分、二分、それは實に永い時間であり、その時間が、まだ正確に心で計算されてゐる間、彼は希望を持つてゐたのだつた。しかし遂に

『これは大へんなことになつてしまつたぞ』と思つた

溝口は猛然として漸く地上に匐ひ上つた。そしてわさと自分の愚しい失策を糊塗するために明朗に笑つてみたが、不安はすぐ胸を掻き亂した。もはや分隊の姿は見えなくなつてゐたのである

ゴム林の葉の茂り合つたすき間から月光が流れて、落葉や雜草をまばらに照らしてゐた。しかし一帶は殆んど暗く、猿や夜鳥の啼き聲が一層夜の深さを感へてゐた。彼はたゞ分隊に續行しようとする心だけで大股に歩いた。彼は全身に熱湯の汗を感じながら、先ほど分隊が通つていつた方向に急いだ。やがて笑ひ合つてゐる自分達の姿を悲しみの中でちらりと想感しながら……

蛙音も聞えず、僅か五分くらゐの間に、溝口は最も不幸な運命に導かれてしまつたやうな氣がした。彼は月の光に洗れてゐるところで立止つた。そして腕時計を眺めた。しかし疲勞であつた。どのくらゐ時間が經過したのか、彼は穴に陥込んだ時間を知つてゐたわけではなかつた

彼は遂に（まだ希望を持つてゐたが）かすかな諦めの中に立つた。彼は目的のない足どりでそのあたりを數歩あるいたが再び立どまつた。そして茫乎と地上をみつめ、それから空を蔽つてゐるゴムの葉の茂りを眺めた。たゞ一人取残された寂寥と、分隊を離脱した責任が、ひし〳〵と迫るほど巨大な壓倒するやうなゴムの林であつた。ねばねばした液をひそめてゐる厚い眞綠の葉の中から紅葉した葉が二、三枚はら〳〵と散りかゝつた。彼はポケットからナイフを出し、根もと近く樹皮を削り取つた。眞白なかたまつた乳のやうな液が滲んだ。彼は拭ひ取つて、それを拇指と食指で弄んだ。ゴムの粘つた彈力が指をくすぐつた。彼は茫然としてゐたのだ。夫就に迷つたのだ

こゝから東方に向つて進んでゆけば、最前の白い小路に出られることを考へた。彼は力無く踵を返した。が、再び彈かれたやうに逆轉して、もと來た道を進んでいつた。もはや分隊は彼を見捨てゝしまつたのだ。彼は泣き出しさうになつて突然佇んだ。そしてゴムの樹の根もとに腰を下ろした。昆虫が足もとで鳴いてゐた。誰からは、すつかり力が抜けてしまつた。落着くために彼は煙草を取り出して燐寸をすつた。その灯りは一入彼の心を寂しくした

彼はやがて、夢遊病者のやうに、力なくゴムの樹に時々ぶつかりさうになつて、もと來た方向に歩みを運んだ。そこに分隊員が、溝口を捜すために引返すであらうことも考へられたからであつた。遂に彼は自分の失敗を戰友の淺ましみの中にさらすことに同意した。あの時、自分は何故鎌田を呼ばなかつたか、と後悔した

溝口は、そのとき、近くに人の聲音とかすかな囁きを聞いたやうに思つた。彼の頬は紅潮した。彼は勢ひよく立上つた

『分隊員だ！』

それは丁度、彼が陥込んだ塹壕のすぐ手前だつた。數名の人影が木立を縫つて近づいて來た。それは亂れた聲音で、しかも一かたまりになつてゐた

『これはおかしいぞ…』

溝口はぎよつとして眼を見張つた。今更ながら、自分がこのゴム林中を歩いてゐるのは、分隊員を發見することではなく、敵兵を捜索することもなかつたかといふ考へに突き當つた

『あッ、敵兵だッ』たしかに英人だつた

彼は本能的に數歩、跳ぶやうに前進して銃を構へた。間髪をいれず

『誰かッ！』と叱鳴つた。その聲は自分でも惚くほど大きかつた。虫の聲がハタと止つた。眼の前に見たのは、四名の背の高い英國兵だつた。丁度月の光が射してゴムの葉隙がちら〳〵する中に、敵兵の顏がありありと見えた。頭の樣に黃色い。庇のない軍帽をかぶり、折襟に半ヅボンの淡黃褐色の制服を着て簡單な裝具を着けてゐた。それが肩を組み合はせやうにして立どまり、凝乎と溝口を眺めてゐた

溝口は動轉してゐたが、超人的な力が溢れてゐることも知つてゐた。銃はしつかり握り締められ、氷のやうに、銃劍の尖先が光つてゐた。相手の跳びかゝつてくるのを待つた。彼はじり〳〵と進んだ。英國兵は何等狼狽の色を示さなかつた。彼等は一歩

進んで來た

その瞬間、彼の心の中に、打消すことの出來ない動搖が起つた

いまや絶體絶命、たゞ一人で敵と對峙したのだ。最早や殘されてゐるものは決鬪だけだつた。今、四人を相手に生死を決することは彼にとつて意外であり、しかものつぴきならぬ事實となつた

溝口の眼は飛び出すばかりに光り、一歩、足もとに向けて威嚇の射撃をこゝろみた。かーんといふ銃聲はゴム林中に響きわたつた。彼は横柱をがちゃりとやつて、一足後に飛び退いて、白兵の身構へをした。左右の者を叩き伏せ、怒髮天を衝く憤りに全身を燒き盡し、斬りまくり突き伏せようとする驚倒的な力に身を委せた

『もし敗れたときは腹を切るのだ！』

この考へが閃いた。平和な輕い氣持で、大皇軍曹と話し合つた英人俘虜收容所の情景が、何故か瞬間に彼の頭を通りすぎた。英人は立向つて來なかつた。恐ろしい空虛が彼の頭を襲かした

『ゲ、ゝ、もう一度…』と彼は叫んだ。彼は先程から、がなり立てたやうでもあるし、沈默を守り續けたやうにも思つた。そして再び引金をぐゝと引いた。眞中の英人が足を抱いてぐたりと倒れた

『十人でも二十人でも絶對に負けさうにはないぞ！』と溝口は思つた。血が蘇り、冷靜が取戻された。胸の動悸がをさまつて憂鬱なまでに白々しい勇氣が湧き起つてきた。彼は意外にも、四人の英人が兩手をあげて降伏してゐる姿をたしかめたのである

『……』

一人の英人が腹の底からしぼり出すやうな聲で何か云つた。溝口は聞き取る必要もなかつた。無條件降伏の意志はむしろ憐れなほど彼等の懇願するやうな態度の中にあつた

『抵抗はしない。めしを食はしてくれ…』

ともう一人の兵隊が云つた

『ギヴ　ミイ　…』といふ聲が悲しく溝口の耳に殘つた。何日もこゝに隔れて、食に飢え、死ぬことも生きることも出來なくなつてゐたのだ

『どこんな部隊でもします…』

ともう一人が云つた

『ちえッ、何て、馬鹿々々しい』

と溝口は思つた

『よし！とにかく跟いて來い』

と溝口はさう云つて、彼等の手に細綱をかけた。彼等はおとなしく臨つた

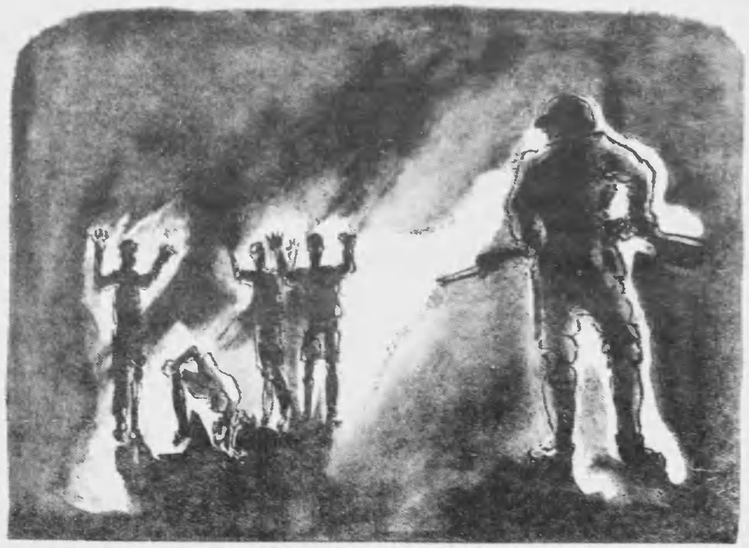
その時、はるかより懷中電燈の光が流れ、慌だしく駈けてくる人々のさわめきが聞えた

『溝口！』と呼びかけた。正しく分隊員の聲であつた

『おーい！』と、彼は叫喚に大を動けて！向を暗示した。冷靜はすつかり遠つてゐた

『お前達は、こゝにゐたのか』

溝口はやがて感激に滿ちた聲で叫び



『はい、この中に……』と英人は溝口が陥込んだ塹壕の方を指したのを合へた

『なんだ、さうだつたのか』と溝口は心の中でふつて苦笑した

『君の名前は何といふか？』

『フィリップ　ブラック』と英人は苦々しい微笑を洩してゐた

フィリップは其處に跪いてゐた戰友の前に相みされて、小聲で何か囁き合つたが、大聲で細綱を取り出して足に安きつけてやつた。彼の指に戰友の血がついた

『われ〳〵は飢えてゐます』と再びフィリップは云つた

『意氣地なしめ…』と溝口は日本語で云つて舌打ちした

『よし。めしは食べさしてやる。心配はないぞ。……しかし……朝、部落に掠奪に行つたのはお前達だな』

『私とトムです』

彼は負傷した兵隊を指しながら事實に苦白した

いつか、强敵の觀念は溝口から去つてゐた。彼は、あまりに他愛ない英人の疲勞困憊した虚弱な姿を目前に見て、彼等が軍人であることを信じ兼ねた。しかし、英人の惡びれぬ態度は既に以前から日本軍に投降しようと考へてゐたものに相違なかつた。ゴム林中に袋の鼠となつた、といふより飢渴の苦しみに堪へかねて、一切の禮度を放棄するに吝でない英國兵を見た。敵に降伏しても生きてゐたいのではなく、ただ生きることの苦しさに我慢できなくなつたのに違ひない。この悲劇が彼等の表情にはつきりと現はれてゐた。溝口は銃の安全栓をしめた

大泉軍曹を先頭に、分隊員が息せき切つて現はれた

『溝口が居た！』といふ叫びは瞬間であつた。一同は新らしい事態に直面した

彼等は今まで、『仕樣のない奴だ』と腹の底で溝口のことを思ひ〳〵、不安の念に驅られながら、こゝまで來たのであるが

『あゝ、偉いことをやつたぞ！』といふ感歎の聲を思はずあげたのであつた。彼等はお互の心の中でたちまち溝口を迎しい殊勲者に祭りあげた

一同は四方に散つて俘虜を取り卷いた。

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

俘虜は、何ともしたかつた。むしろを數の兵隊を見て、然るべきところに落ちたといふ安心さへ、その顏色に蓋いてゐるのだつた。恐らく、味方の英人がさらに十數名多數であつたとしても、日本軍に追ひ詰められた彼等の精神は、既に潰されてゐたのである。一人の日本の兵隊は集團そのものゝ彈力を無にしてあまりあつた

× ×

落葉の堆積と見られたのは、彼等の夜露を凌ぐ假の宿の椰子葺きの小屋だつた。そこには彼等四名が、塵の上にゴムの袋と麻袋を敷いて寢てゐたのだつた

大泉軍曹は微細に塵の中を調査した。彈藥のないチェッコ輕機關銃と彈倉が各一、大圓匙一、紫褐色の毛布一枚、アルミニュームの四角な飯盒四と彼等の私物品が若干あつた。今隊員はそれ〳〵これらの銃器を押收し、私物品をとりまとめ、二つの麻袋に詰め込んで、それを中でも頑丈さうな、赫ら顏と一番若さうな英人に擔がせた。チェッコ輕機關銃は運搬が擔行した。かくて、一同は俘虜を見守りながらゴム林を出たのだつた

一たいどうしたといふのかね。すつかり面喰つた。……銃聲が聞えたんで、てつきり何事か起つたと思つて駆けたよ。隨分探したあとだつたんで……

大泉軍曹はにこ〳〵しながら溝口に話しかけた。二人は先頭を歩いた

『申しわけありません。すぐあとへ續けると思つて隊を出さなかつたのです。あと思ふ間もなく穴に潜込んだのです。逃よくそこに彼等が隠れてゐたのでよかつたのですが、……心配かけて……』

溝口は額を眼らせながら云つた

『ハ、、、、いや、今になれば、それが天の導きだつたといふことになるな……奴等は何故、逃げずにのこ〳〵出て來たんだらう』

『分りません。むしろ僕を追跡したのかも知れません。……使の勝手な考へですが、彼等は日本兵の僕を敵とつもりで追つて來たのではなくて、逆に降伏するつもりで來たと思はれる節があります。何故なら、われ〳〵が塵の傍を通つていつたことは知つてゐたに違ひありませんからね。もう前から食ふに困つてゐたので、投降に行つたのですが、町の市街は日本軍と提携して完全になつてゐるし、再びゴム林に戻つたけれども前途が暗澹たるものなので、いつそのこと、今度あたりはこちらから自首して出ようと考へてゐたのかも知れません』

そこへ、うまくわれ〳〵が通りかゝつたといふのかね。ハ、、、、さあ。どうかね、案外君の跳が効いたのかも知れんよ』

『いゝや。全然最初から敵對の樣子が見えませんでした。僅はたつた一人になつてゐたものですから、一發ぶつ放してみただけです。ところが最初から意氣銷沈してゐたのです。しかし、いかに意氣銷沈したつて、投降してまで生きようとする考へは分りませんね。どんな勢働でもするから、めしを食はしてくれと云ひました』

『軍人精神がないのさ。……しかし君はさうまで逡巡しなくつてもいゝよ。君が一人で發見し、一人で捕へたのさ』

いや、それは……』と溝口は困惑して何時とはなしに額に手をやつた

『分隊から離れて、たつた一人でふん掴まへるなんて、大した殊勲だ』と吉村が云つた

われ〳〵は何のために、あんなに急いで、きよろ〳〵歩いてゐたのか、取かしくなるよ』と樋本が云つた

讃美の聲が後から〳〵傳つて來た。溝口は面喰つた。今日の出動の目的は、その過程がどうあらうと結果として成功し、その目的を達したのだつた。溝口はしかしくどくつたい氣持だつた。自分一人が武勳を立て、俘虜を引き連れて悠々歸還してゐる等と、英雄的な氣持になることは出來なかつた。たゞ彼の心を秘かに神げてゐるものは、生命の危險に際して、この自分の肉體にも、たしかに日本武士の血が流れてゐる

といふ事實をたしかめたことだつた

俘虜兵は前と後に挾まれて歩いてゐた。フィリップは負傷兵の手を肩から掛け、引きずるやうにして歩いてゐた。ゴム園を出て椰子の林を抜け、サンパンに乘つたとき、月はぐん〳〵西に動いて、何かに追ひ立てられるやうに密林の中に沈んでいつた。一同の胸の中には任務を終へ、しかも俘虜を擁して意氣揚々と歸還する者の、誇りに滿ちた歡びがあふれてゐた

大泉軍曹は誰にも手をかさず、自ら櫂をあやつつた。靜かな流れはぴた〳〵と船腹に當つてくだけ、船は左右に動搖しながら、河の眞中に漂つた。月は急速に密林に落ち、その橙色の圓球は動くに隨つて大きくなつた。巨大な月がその姿の半身を落したとき、踊んだ河は次第に白色の霧を浮べて明けゆく光をゆらめかし始めた。既に東方では樹木の中から淡紅色の雲が蠢き出したのである。星は薄れ、月は太陽に追はれるやうに沈んでいつたが、まだ地上は暗かつた。しかし既に夜が明けて新らしい華が開かれてゐることを告げて、更生の歡喜を唱ふ南洋鶯が、もはや民家の屋根や、パパイアの梢に現はれて、絶え間なく美しい聲で囀つてゐた。それは、お互が沈默を守り、夜のさま〳〵な聲が途絶えた爽かな暁の靜寂の中に聞えたので、一同は思はず耳を欹てたのだつた。俘虜兵は自分の運命の苛烈さの中からその微妙な聲を聞きとつて、複雜な感動に襲はれてゐるらしかつた

彼等にとつては全く夢であらう。敵兵に捕はれてサンパンに乘り、曙にもの思ふ氣持は、想像も出來なかつたことであらう。溝口にしても、會社員生活の長い習慣から一轉して、マレー戰線で銃を執り、しかも今、英軍俘虜を擁してサンパンを操つてゐる。一瞬前の運命は、人間心理の經驗し得る最高の秘密を突破したのであつた。しかも今、身も心も平穩に、南洋鶯の聲に恍惚と聞きほれてゐるとは、夢でなくて何であらう、もしもこれが逆の立場であつたなら、日本人はこの屈辱に堪へ切れぬに違ひない。日本人は一兵にならうとも、腹を切るまで、決戰するだらう。一同がサンパンを降りると、マンビンタエは最前から岸に立つてゐて

『おゝ！イングリッシュ・ソルヂャーだ。萬歳！』と叫んで、昂奮しながらその邊りを二、三回くるりと廻つたが、凄じい勢ひで派出所に戻つていつた。アブドラ・モハマ・ハシム所長は大慌てに慌てゝマンビンタエに伴はれて出迎へた（つゞく）

思想戰讀本 週報連載中

思想戰とは何か。最近、思想戰といふ言葉がよく用ひられるやうになつたが、果してほんたうの意味で理解されてゐるでせうか。大東亞戰爭も究極においては、思想の戰ひ、思想戰なのです

そこで情報局では、週報誌上に『思想戰讀本』を連載し、いろ〳〵の角度から、思想戰の意義、目標等を明らかにすることにしました。是非御一讀下さい

おを跡の勳武の樣父を
いやしつらいて見

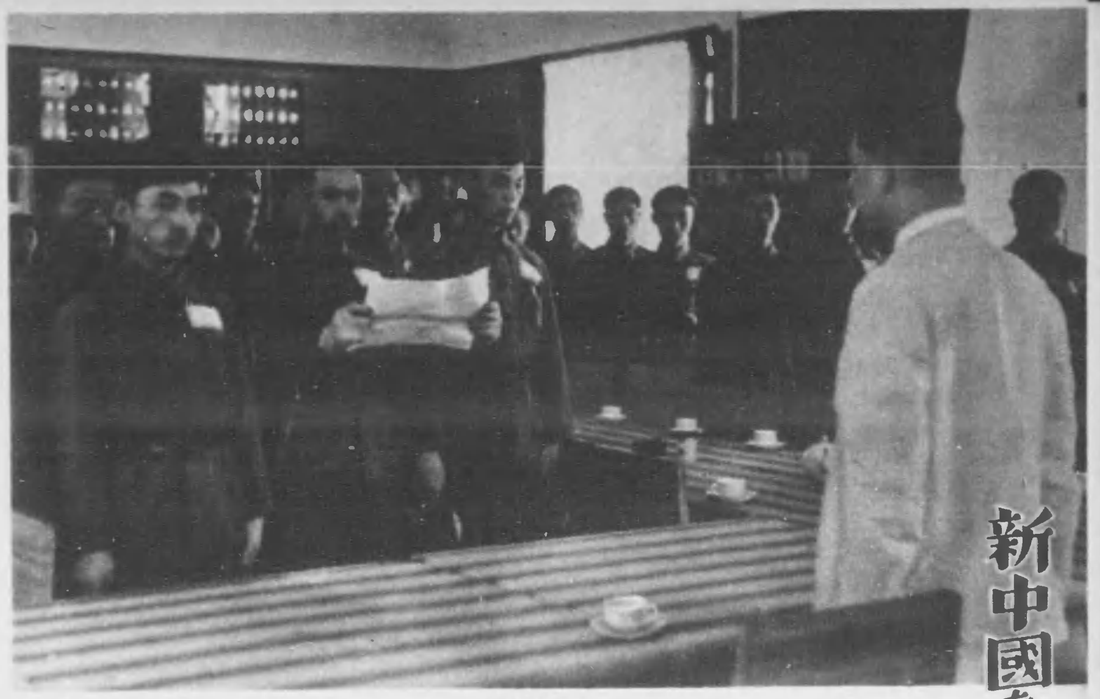
東條總理滿洲滿理總條東へ立つ遺兒を激勵

建國十年を祭ぐ盟邦滿洲國の慶祝式典に招かれて列席した『滿洲建國功勞水遺兒團』の一行百五名の遺兒達は帝都出發に先立つて、東條總理の激勵と訓示を受けました。醇々と慈父のやうに訓し勵ます總理の聲は、父を兄を、樂土滿洲建國の人柱として捧げたこれら遺兒達の胸には愛兒の旅立ちをさとす眞の父の、兄の聲とも響き、まだ見ぬ憧れの大陸、父兄武勳の跡へと思ひをはせるのだつた

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

新中國を導く青年学徒

實踐に移された「新國民運動」



新生中國の決戰體制、「新國民運動」は大東亞建設の一翼を分擔するに相應しい中國を建設するために、かつて蔣介石の抗日宣傳や排米英思想にしみた中國民衆を根本からたゝき直して清新潑剌の新國民を作り、日華一心同體、中國復興、東亞保衛の實をあげる運動です

汪精衛氏はこの運動をもつて中國指導の根本指針とする一方、これを通じて大東亞戰爭への協力、つまり戰爭遂行に邁進する日本に對し日華不可分の關係をいやが上にも固くして中國の銃後的役割を徹底的にはたすことを述べてゐます。それだけにこの運動の成果如何は明日の中國の運命をも決する重大な役割を持つてゐるわけで、その實行にあたつては氏自ら運動促進委員會の委員長となり、一大運動の陣頭に馬をすゝめるほど熱心に指導に當つてゐます

さてこの新國民運動はまづ青年、學生層の訓練に重點を置き、これによつてさらに一般民衆に普及させることになつてゐます。即ち小學四年から中學三年までを童子軍とし、中學四年から大學生までを青年團、別に運動の擁護團として中國青年模範團が組織され、この十一月から實踐訓練に入ることになりましたが、これら青少年の育成を目指す青少年團の組織や實踐内容には多分に大日本青少年團がお手本になつてゐます

實踐内容は集團訓練の下に滅私奉公、清廉潔白、誠實、陋習打破、勤儉節約、勞力奉仕など東洋古來の道義が强調され、日々の手近な生活の刷新から着着明日を建設する理想を包含してゐます。今や中國青年革新の機運は成りました

我々日本の青少年も友邦中國の同志とガッチリ腕をくんで戰爭目的の完遂に邁進しようではありませんか

こゝに紹介したのは青年錬成の第一着手として全國大學生中の優秀なものを選拔し、新國民運動の指導者基本幹部とするため夏休みを利用して炎熱下の紫金山麓に集營、指導推進力としての精神的、肉體的訓練を實施した『全國優秀大學生夏期訓練班』の活動狀況です

撮影　支那派遣軍報道部

⇨汪精衛氏は訓練所に新國民運動の根本意義をじゆん〳〵と說けば訓練生は巷公の說を遠くナ宣傳と讀みあげた

⇨天幕生活も軍隊的訓練の一つ矣、これによつて協同の精神が養はれる

⇨筋肉勞働は苦力のするものと蔑み、從來の觀習は破られた。中國の最高教育をうけた優秀大學生が率先道路の補修に當る

⇨女子軍もそろひの服で訓練に參加、新生中國の婦道を身をもつて體驗した

⇨今日は酷熱行軍、紫金山麓の山道を隊伍堂々行進する下士

豊年満作を一刻も早く国の穀倉へ

埼玉縣早稲田村

九月、十月は前年度のお米が無くなる端境期です。それでも今年は麦類の出廻りがよくいつてゐる上に、外米も順調に入つてゐるので、この分なら今年の端境期は何の心配もなく通り過せる見込みです。食糧増産の奬励、食糧營團の新設と大戦下の食糧對策に寸分の手抜かりもないやう努力してゐる農林省では更に、今年はお米の買上げを例年より早目に行ふことになり、十月十日までに供出されたお米については石當り六十錢、十月末日までの分には四十錢の集荷奨励費を交付して、早場地方を中心に全國から出来るだけ早く出来るだけ沢山の新米を供出してもらふことになりました

帝都の御台所を水ぬる埼玉縣は全國でも指折りの早場米の産地ですが、なかでもその名が示すやうに北葛飾郡の早稲田村は利根川の豊かな支流に育まれて一望早や黄金の波、村をあげて取入れの最中です。人手や肥料の不足も克服したお百姓さんたちの不屈の努力と上々の好天候に恵まれて、例年にない豊年満作が豫想されてゐる稔りの稲田には、いまひたすら聖恩に報へまつらんとする村人たちの真剣な姿が見られ、内地産米豫想七千万石の魁として一億希望の見事な米穀は、どし〳〵とお國の穀倉を目ざして積み出されてゐます

舞ひ上る籾殻、飛び出すお米　籾すり作業がはかどつてゆく

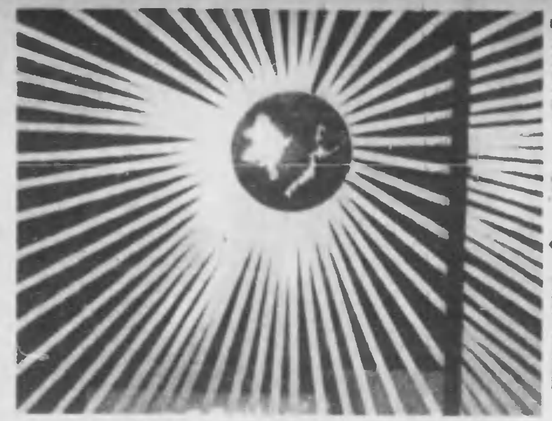
豊年満作だ　ザック〳〵と刈り入れの鎌も軽い

二年間の努力の結晶は眺めていてほしい収穫なく農業倉庫へ

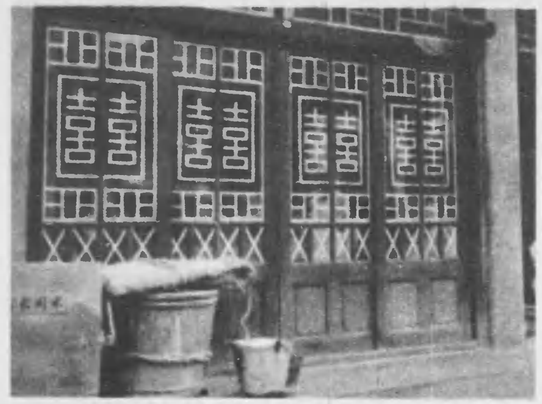
見事検査にも合格して、㊞の太鼓判を押してもらふ

収穫も多かつたがみいりも多かつた。通帳を手にしてお爺は眼を輝かせる

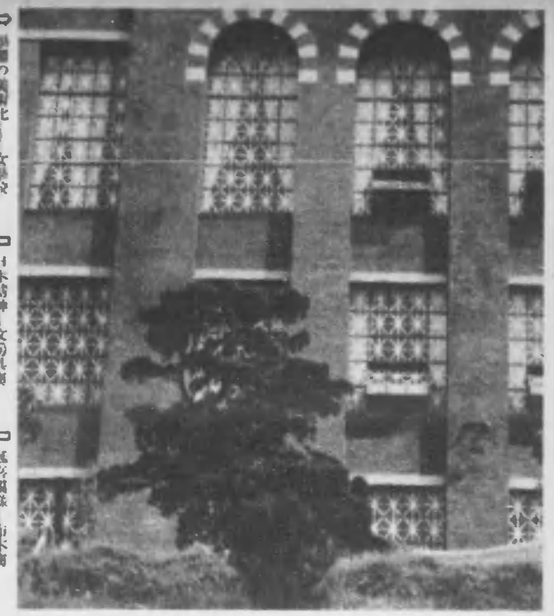
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



⇦ 標語の美術化——京城校



⇦ 日本精神——文房具商



⇦ 極彩模様——布木商

標語も一役——自動車商令 ⇨

氣流等の防空實驗

京城府 金澤光雄

空襲の場合煙風による被害を少くするため、商店の飾窓やガラス戸などに施された煙風除けの防紙には、千差萬別思ひ〳〵のものがあつて、中には美しく見受けられるものもありますが、これは最近の京城の優つた風物の一つ。窓硝子を濕らして作り出された これらの煙風除けは、さながら街の防空美術品ともいへるくらゐです。なほこの煙風除けに用ひられてゐる朝鮮紙は湿潤の下貼りなどに使はれてゐるもので、その强さは恐らく世界第一であらうといはれてゐます

復習室

本號からあなたは何を讀んだでせうか？

1 ある果物屋さんでは梨と柿を詰合せにしてしか賣つてゐません。バラでは買へないものでせうか？……（三〇頁）

2 わが國に新神宮ができたのは何時頃でせう？……（一九頁）

3 第七百下卷、信濃屋の店頭の寫眞はどこがいけないのでせう？……（一頁）

4 百万圓の陽と五百の陽と何れも惡質ですが、五圓位の陽は簡辨してくれるでせうか？……（一〇頁）

5 新神宮祭は陽を獲得する利害の面と繁榮の動向を知る特高の面とも一つわれ〳〵と密接な關係のある面があります何んでせう？……（八頁）

6 伊勢神宮はいつ御遷宮になりますか？……（一一頁）

7 今年は全國でどれ位お米がとれる豫想ですか——三千万石？ 五千万石？ 七千万石？ 九千万石？……（二〇頁）

8 今行はれてゐる伊勢神宮の御造營奉仕と何をする奉仕ですか？……（一一頁）

9 この間東條總理に渡邊をうけた道兒部隊は何しに滿洲へ行きましたか？……（一七頁）

10 十八年度の食糧增産戰は先づ早場地方に凱歌が揚る 猪苗代地方に凱歌が揚る 馬鈴薯八百貫を收穫した？ 飯の大群を補獲した？ 新米が大量に供出された？……（二〇頁）

一問十點としてあなたは何點でしたか？

大東亞戰爭漫畫日誌

石川 進介

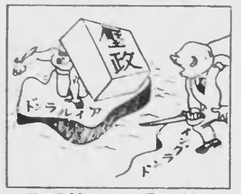
文武並んで大東亞建設へ

殘存の米機零戰林莊で撃砕

滿洲國から航空日に參加飛行

汗の結晶七千万石の豐作

脚八百トンで行進



こんとは足らとらら反英の英反

新案 闇退治法

⇧ 鼠公にも一役買はせよ

根本映一

鼠公を四方に走らせる。現場を押へた鼠公「およしなさい、みつともないマネを、鼠助以下おやめなさい」

⇦ 子供は一番こはい

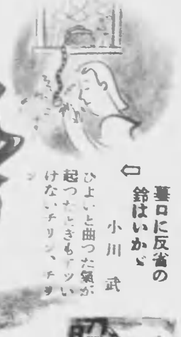
秋玲二

間に實はこはい、後暗い眼に天眞な子供は一番こはいからね。おもやさん、先生がかういつよ

⇧ 闇紙束て制壓

森熊猛

外出には必ずこの袋はし闇紙束でたければいけないとした



⇦ 喜ロに反省の鈴はいかゞ

小川武

ひよいと曲つた氣が起つたときもチツ けないチリン、チリ

⇧ 移動擴聲班出動

杉征夫

ピツ〳〵話聲を生む。そこで隣組自警團は擴聲班を出動させ未然に闇行爲を防いで歩く

⇧ 二度と罪を重ねうよぬ

小泉榮郎

日本人として恥ずかしい行爲を犯した人は根精なく死度一は上たしを反省つてつたにりうせまひらもてへかわ

寫眞週報（禁轉載）

昭和十七年九月廿三日印刷發行

編輯者 情報局

東京市麹町區永田町一ノ一

印刷者 內閣印刷局

發行者

東京市麹町區大手町

定價

一部十錢（送料一錢）

（外國郵送に依る地域は送料共一部十九錢）

▲豫約配送御希望の方は一部十錢（送料一錢）の割合を以て前金を添へ御申込み下さい

▲特大賣の場合は其の都度御拂込金より差額を申受けます

申込所

全國各地官報販賣所

書店・驛賣店

新聞販賣店

寫眞材料店

本誌を戰地に送りとなる場合には送料は內地と同樣に帶封あるひは開封にして第一種と明記すれば一部一錢です

★表紙

加藤さんから大久保さんから十歳二十歳と運ばれてきた新らしい米俵は、祖母しい重みを肩に綾してみるみる積まれてゆく。瑞穗の國の名にふさはしくお國の穀倉、農業倉庫にきつしりと。大戰下の食糧增産戰は先づ早場地方に凱歌が揚つた——埼玉縣早稻田村にて

寫眞週報
昭和十三年十月十日 第[illegible]號 [illegible]昭和十七年九月廿三日郵便物認可 毎月三回廿日發行 一部 [illegible]
○
內閣印刷局印刷發行

(本書の大きさは定價A4倍定民はさら大の書本)